

車いすテニスなどパラスポーツを通じた障がい者の社会参加のきっかけづくりにも力を入れて子どもへの情報発信にも力を入れる

オリンピック・パラリンピックのワールドワイドパートナー、ブリヂストン。従業員応援団による社員として所属するトップアスリートの応援活動を展開。また、障がい者の社会参加のきっかけとなることを目指した未経験者・初心者向け車いすテニス体験会や、子どもたちにパラスポーツの魅力伝える活動にも力を入れている。



株式会社ブリヂストン



企業情報

株式会社ブリヂストン

【担当部署】オリンピック・パラリンピック室
 【所属人数】37名
 【担当部署】AHL企画推進部
 【所属人数】17名
 【住所】東京都中央区京橋3-1-1
 【電話】03-6836-3001(代表)
 【URL】https://www.bridgestone.co.jp/



試行錯誤を繰り返しながら、応援団への参加者を増やす



小林選手を応援する社員の皆さん

「ゴールドパートナーとなった当初は、何から始めていいか分からなかったが、まずは、当社社員の車いすバドミントン選手、小林幸平選手の応援からスタートした。」(オリンピック・パラリンピック室アクティベーション推進部の齋藤景介氏)

次に、夢に向かって挑戦するすべての人を応援する

「TEAM BRIDGESTONE」を発足。社内外のトップアスリートたちと契約し、彼らが出場する大会での応援活動にも取り組み始めた。対象の大会ごとにイントラネットで参加者を募り、従業員応援団を組成しようとした。ところが、競技や大会によって、参加人数に大きな差が生じてしまったのである。

そこで、Tシャツやスティックバルーンといったオリジナルの応援グッズを作り、参加者に配布したところ、応援団に一体感が生まれ、参加人数が増えたのである。また、もっと社内の隅々にまで情報を浸透させたいと、2019年度より各部門や事業所におけるオリンピック・パラリンピックのコミュニケーションの中核となる従業員アンバサダー制度もスタートした。

障がい者への思いを込めた車いすテニス体験会

サポート活動の一環として、東京・小平の同社のテニスコートで、人工芝から車いすテニスもできるハードコートに改装した。加えて雨天でも練習できるようにと、屋

根付きコートを新設した。小平のコートでは、未経験者・初心者向けの車いすテニス体験会を開催している。



(左)久富氏 (右)齋藤氏

「障がいのある方の中には、自宅に引きこもりがちの方がたくさんいらっしゃると思っています。そうした方たちが外出しているいる方と交流し、社会に踏み出すきっかけになればと考えています。」と語るAHL企画推進部の久富 龍次郎さん。

参加者募集にあたっては、久富氏が開催地周辺の病院や福祉施設などを一軒一軒訪ね、写真を見せながら体験会の趣旨を説明したり、チラシを配布したりしている。そうした活動が実を結び、毎回、定員いっぱいの参加者が集まっている。

車いすテニス体験会の前日には、同社従業員でパラバドミントンの選手を講師に迎えてマナー研修を行い、車いすユーザーとの接し方を学んでいる。多様性を理解し、社会貢献意識を養う貴重な機会となっている。



車いすテニス体験会の様子

パラスポーツの盛り上げに必要なこと

「選手の背景にあるストーリーを知ること、会場で生観戦すること、体験すること」を繰り返すことで、パラスポーツ

の醍醐味やパラアスリートのすごさが理解できるようになり、結果、パラスポーツの盛り上げにつながっていくのではないかと、齋藤氏は分析する。

同社では、本番に向けてパラスポーツの盛り上げを加速させようと、今後は小中学生に向けた情報発信にも力を入れていく方針である。

「まずは子どもたちにその魅力を伝えることが重要だと分かりました。パラスポーツやパラアスリートを知った子どもたちは、親にその魅力を伝え、試合を観に行こうと誘う、いわゆるリバースエデュケーションが起こるからです。全国で展開中のお子さん向けスポーツイベント『ブリヂストン×オリンピック×パラリンピック×GO GO!』でも、その効果を期待して、今年からオリンピックとパラリンピックが半分ずつになるよう内容を構成し直して実施しています。」(齋藤氏)



社員もボランティアとして参加

ワールドワイドパートナーとしての役割を果たすべく、真摯な研究と丁寧かつ地道な取り組みを積み重ねながら、独自の道を切り拓いている同社。その活動は、2020年とその先の日本と世界を明るく照らすものとなるに違いない。

※本文については、2019年10月時点のものです。

コロナ禍における取組・今後の方向性

当社は、企業理念の使命である「最高の品質で社会に貢献」を実現するために、指針として“Our Way to Serve”を掲げている。パラスポーツのサポートは、その取り組むべき重点領域の1つ「People(一人ひとりの生活)」に結びつく活動である。ワールドワイドパラリンピックパートナーとして、社内外の様々な活動を通して引き続きパラリンピックをサポートしていくとともに、パラ競技やパラアスリートの支援を継続する。